

地域学取組事例 No. 2 御殿場南高校

藍染体験とあずま袋づくりから考える江戸のエコ文化

御殿場南高校生と市内の中学生を対象として、地域の伝統工芸に関わる全2回の体験講座を7月に開催しました。生徒がものづくりの体験を通じて地域の伝統産業に触れ、地域への理解や愛情を深めるとともに、日本のエコ文化を学び、現代的な社会課題への関心を高めることを目的としました。

第1回は御殿場唯一の染物屋である小原屋で、静岡県産の郷土工芸品でもある「みくりや染織」を体験し、江戸時代から続く伝統技法に触れ、郷土の歴史や文化への理解を深めました。第2回は御殿場南高校を会場として、第1回で作成した手ぬぐいを使用し、あずま袋づくりを体験しました。

あずま袋は1枚の布を縫うことで完成する江戸時代を起源とする現代のエコバッグです。参加者は自分で染めた手ぬぐいを使用して実際に袋をつくることで、江戸当時の庶民の文化を体験するとともに、現代に活用できるエコの考え方や手法を学びました。

2回の講座に参加した高校生は、8月にNPO法人エコハウス御殿場が主催するエコアクション2023の体験コーナーに「藍染あずま袋づくり」を出展し、地域の小学生や中学生、社会人に「みくりや染織」の布を使用したあずま袋の作り方を教えました。高校生は地域学の発表の場としてだけではなく、地域の子どもたちとの交流を通して、郷土への思いを深めていきました。

また生徒はカメラマンと協働して、藍染の様子を映像作品として制作し、藍染の魅力発信をおこないました。

